

ありがとうの気持ち

影山 こよみ

十月二十三日午後五時五十六分新潟中えつ  
地震が起きた。地震が起きたときに近くの種  
苧原小学校に逃げた。なにもなくて大変だっ  
た。私が、

「おなかすいた。」

と言ったとき、近くのおばあさんが持っていた  
バナナを一本くれた。すぐおいしかった。

次の日ひな人所に行った。すると友だちが  
いた。

「みんな助かったんだ。」

ということが初めにわかった。

ひな人所では、二か月くらした。その二か  
月の間ダンボールの上に毛布をしいてくらし  
た。毛布をかけただけで寝ていたので病気に  
なる人がたくさんいた。病気になる人を病院  
につれて行けなかった。それは、病院が近く  
になかったからだ。

じええいたいの人たちがご飯やおふろをよう  
いしてくれた。おふろは、時間が決められて  
いた。ご飯は、みんなで分けをしてはこん  
だ。しえんぶっしもたくさんいた。だいた。手  
紙には、  
「寒いけどがんばって下さい。」  
と書いてあった。そして私も、がんばろうと  
思った。  
私はしょうらいがんでしさんになるうと思っ  
ているので地震のしょうくで病気になる人  
やけがをした人を助けたい。私も手紙で元気  
づけられたからけがをした人も私が手紙をあ  
げて元気づけてあげたい。